

Q4 リコーダーの演奏が苦手です

【考えられる背景】

- 協応運動がうまくいかず、スムーズに指を動かすことができない
- 楽譜を読むことが難しく、演奏することができない



【支援への手がかり】

☆ 協応運動能力を高める

目と手の協応が上手くできないということが考えられます。リコーダー演奏から離れて、例えば箸を使って大豆を皿から皿に運ぶゲーム、雑巾絞り、はさみなどを使用して協応運動のトレーニングをしてみることも考えてみましょう。

☆ 粗大運動を取り入れる

手先だけの運動を考えて細かい作業をこなそうと繰り返し行っていると、苦痛になってしまうことがあります。風船バレーやキャッチボール等、楽しみながら取り組める活動を取り入れてみましょう

☆ スモールステップで取り組む

リコーダーの演奏には、一度にいくつかの操作をしなければなりません。リコーダーの小さな穴を指で閉じたり開いたり（穴がどこにあるか確かめながら）、息を吹き込む、楽譜を読む、リズムをとるなどです。不器用な子どもにとっては、これほどのことを一度にやってしまうということは大変なことです。

- ① 高さや大きさを気にせずに吹いて、音を出すことだけを練習します。
- ② 音の長さや大きさがコントロールできるようにしましょう。
- ③ 片手だけの穴の開け閉めの練習をしましょう。
- ④ 片手で音を出す練習をしましょう。
- ⑤ 両手で穴の開け閉めの練習をしましょう。
- ⑥ 両手で音を出す練習をしましょう。

課題を段階に分けて、指導をしていきましょう。

☆ 階名をふる

楽譜を読むということは、私たちが考えている以上に難しい作業です。まず、五線のどの部分に音符があり、その音がどの音なのか、また、リズムはどうなのかを見分けるなければいけません。このような場合は、楽譜に階名をふります。また、リズムを単調にし、簡単にする、見やすいように楽譜を拡大するなどの方法が考えられます。

子どもたちは音楽が大好きです。楽器の演奏も楽しみの一つとなりますが、努力してもどうしてもうまくいかないときは、子どもと話し合いながら、楽器を代える、歌をうたう、鑑賞することを中心にする等、音楽が好きでいられる方法をとることが大切ではないでしょうか。